

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600377
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲669番地4
自己評価作成日	平成21年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の中から、ゆったりと流れる肱川を眺めることができ、敷地内の2本の桜が、季節を感じさせてくれます。  
 保育園児との交流や、地域の行事であるうら盆祭りには、笹飾りや、作りものを、出品して参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年を経て、利用者、職員共に落ち着いて安定した生活状態を確保している。ホームとして市と連携し情報交換や研修会を実施するなど、認知症ケアの啓発に積極的に取り組んでいる。また、生活サポートを念頭に置いた具体的な介護計画を作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏名 丸本真由美

評価完了日 平成21年 7 月 20 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の運営理念を明確化して、ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活を目指して介護している。 地域との交流、住み慣れた場所での生活の大切さを、皆で理解し、話し合いながら介護に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「一人ひとりの自立を支え、安心と尊厳のある生活を支援していく」という法人としての理念を明確化し、職員との話し合いの中から、ユニット毎に理念を掲げて日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事への参加や、教育機関との交流をしながら、地域の中で暮らしている実感を持ってもらっている。 お花見に地域の人を招待して、顔見知りの人が増えた日常的交流は、まだ不十分ではあるが、努力はしている。地元の入居者に、地域の人が面会に来てくれる。</p> <p>(外部評価) 目の前には幅50メートルはある大きな川、背には山という立地条件の中で、地域の方が守ってきた伝統の祭りに参加したり、中学生の職場体験を積極的に受け入れることで交流を図っている。</p>	広い芝生の前庭を利用して茶話会を開くなど、隣近所の方に気軽にホームに向いてもらえるような工夫をし、日常的に付き合いのできる関係を築いていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の一部の人の理解は得られているも、まだ不十分であるので、取り組みが必要。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス評価への取り組み状況等について、報告をしている。地域交流や、災害時の対策などの意見を聞いて、具体的に取り組むようにする。	
			(外部評価) 利用者、家族、行政職員、自治会、婦人会、人権擁護委員、他のグループホームの職員など、様々な立場の方をメンバーとして、広く意見交換ができるようにしている。また、ホームの生活ぶりを知ってもらうことで認知症に対する理解を深める啓発の場としても役立っている。メンバーには避難訓練にも参加してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) サービス担当者会議に参加して、勉強や、情報交換をしている。 生活保護係の担当者との連絡。 市にケアプランを提出していて、質問や助言がある。	
			(外部評価) 市の地域包括支援センターを交えて月1回のサービス担当者会議を開き、事例研修や学習会・情報交換等をしている。他のグループホームと相互の訪問視察研修も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 禁止となる具体的な行為について、勉強会を行い、身体拘束マニュアルがあり、身体拘束はしていない。玄関は施錠していない。	
			(外部評価) 具体的なマニュアルをつくり、介護保険指定基準についてだけでなく言葉による拘束についても勉強会を行い、注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者、ホーム長、職員等、日頃から気をつけて、防止に努めている。 資料から、事例をあげて、勉強するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がいるので、必要時に連絡をとり、支援している。 制度の理解については、勉強会等参加しているが、その都度勉強が必要。関係者と話し合っても、利用に至らないケースがあり、難しい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、書面をもって、わかりやすく、丁寧に説明して、理解、同意を得ている。 改定時は、新しく書類を作成し、再度、説明、同意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情相談先の説明をして、意見箱の設置。 利用者さんの意見は、日頃の会話や、行動を観察して判断している。 介護相談員さんとの意見交換。  (外部評価) 利用者から改まって意見を言われることは少ないが、日々の生活の中で嫌なことや希望等を汲み取るようにしている。家族には訪問時には積極的に話しかけ、訪問の機会が少ない場合には手紙で問いかけるなど、話し易い雰囲気をつくるよう配慮し、家族会や運営推進会議への参加を呼びかけて要望や意見を出してもらえよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の業務カンファレンスで、意見を言える機会もあり、休憩中にもいろんな話をしている。 法人のホーム長会議で、話し合いの場が設けられている。  (外部評価) 月1回の業務カンファレンス時には、職員が気軽にどんなことでも積極的に発言できるような雰囲気づくりに配慮している。出された意見は運営法人のホーム長会議で取り上げ、運営の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 本人のやる気と実績しだいで、研修に参加する機会や昇進する機会がある。 時間外手当や、資格給がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 習熟度にあった研修会に参加している。 法人内外の研修会にも参加している。 資格試験への挑戦もしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入し、研修会等に参加。 市内のグループホームの相互見学を、今年も行い、情報交換、勉強会を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査の時、本人、家族から、十分話を聞いている見学に来ていただいて、他利用者さん、職員と一緒にお茶を飲んだりして、雰囲気を感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) まず、見学に来られた時に、丁寧でわかりやすい説明をして、家族の疑問や、質問に答えている。 入所案内書、契約書にて更に、細かく説明して、遠慮せずに、話していただくように声掛けしている。 家族の話はじっくり聞いて、要望は必ず聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、担当者から、情報を得て、入居に適しているかどうか、相談はしている。が、生活して初めて、周辺症状のひどさに気づくこともあり、見極めの難しさを感じている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩ということをおいて、生活歴を生かしているいろいろ教えてもらっている。目線を同じにして、話を聞くようにしている。生活リハビリを一緒に行い自然に喜怒哀楽が表わせるような関係を作っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、生活状況や、健康状態、連絡事項など手紙に書いて利用者さんの様子を、理解してもらっている。 毎月の新聞を、楽しみにしている家族もいる。 面会に来られた時は、コミュニケーションを取り、その時、一番必要な支援を話し合っている。 外出、外泊の支援をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の行事へ参加して、馴染みの人や、近所の人に声を掛けてもらったり、面会に来ていただいている家族への手紙や、年賀状を書いている。 ドライブを利用してのふるさと訪問。  (外部評価) 利用者が昔から楽しみに参加してきた地域の祭りなどには積極的に参加し、昔馴染みの方とふれあう機会を持てるよう配慮している。また、自宅や自宅付近を一緒に訪れ、馴染みのつながりを継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性の良し悪しを考えて、テーブル席を決めている。 職員が間に入り、会話を取り持っている。 貼り絵や、花植えなど、それぞれが役割分担して、一緒に行っている。昼食後には、皆で、畳の所で足挙げをして、音楽を聴きながら、休んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院をしている人にはお見舞いに行っている。 必要に応じて、担当のケアマネジャーさんに連絡している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人にあった声掛けをして、希望や意向の確認をしている。困難な場合は、日頃の会話や、行動、表情から察している。 家族の話から、本人の気持ちを知ることもある。  (外部評価) 日常の関わりを通して思いを汲み取るよう、特に入浴や散歩など個別の関わりができる時に寄り添って話を聞くよう努めている。聞き取った内容を職員全員で共有化できているとまでは言えない。	個々の職員が感じたり聞き取った利用者の思いや意向を記録して蓄積することで、全ての職員が情報を共有化し、ケアの質の向上につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 訪問調査のアセスメント、入所時のサマリーで把握理解するようにしている。 本人、家族からも聞き取りを行い、これまでの暮らしから、かけ離れないように支援している。 本人のペースを大切にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、パターンを把握している。 できることを一緒にしながら、能力の変化状況などに気をつけている。食事、排泄、入浴時などは、特に心身の変化に気を配っている。その日、出来たこと、出来なかったことなど、申し送りしている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の意向を確認し、職員間で課題について話し合い、ケアマネジャーが作成している。 月1回は、ケアカンファレンスを行い、受け持ち担当職員が課題提起して、話し合いをしている。  (外部評価) 担当職員は日常生活の中で利用者や家族の意向や思いを収集し、カンファレンスで職員全員の気づきを出しあって、利用者本位の具体的でわかりやすい介護計画を作成している。職員のモニタリングが介護計画に直結しているとまでは言えない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に、介護記録、経過観察記録に記入している。 利用者用申し送りノートに気づきを記入して、情報の共有をしている。勤務者でミニカンファレンスをして実践し、ケアカンファレンスで検討して、日々の介護やケアプランに活かせるよう努力している。 介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人家族の要望に応じた受診介助。 療養マッサージの受け入れ。 法人内の地元のグループホームへの移動。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月に1回ボランティア（読み聞かせ）の訪問。 地元の商店での買い物、美容院の利用。 保育所、小学校の交流、中学校の職場体験受け入れ 消防署の避難訓練の指導。生活保護の方の民生委員さんへの連絡など。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族の希望する病院を受診している。 (歯科、眼科、耳鼻科、皮膚科、総合病院等) 協力医療連携機関の医師の往診は、本人、家族の同意 のもと受けている。</p> <p>(外部評価) 利用者と家族の同意を得たうえで協力医療機関による 月2回の往診を行い、日々の健康管理に努めている。 専門医を受診する際は職員も同行し、医師との連携を 図りながら適切な支援ができるように配慮している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎朝、連携医療機関の看護師から電話があり、 健康状態を報告している。変化がある時は、施設の 看護師に相談し、かかりつけ医へ連絡して、 受診をしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 情報提供書を書いて、理解してもらうようにしてい る。 お見舞いに行ったり、主治医に経過を聞いている。 いつ退院してもいいように、準備している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療連携体制、重度化した場合、看取りについての 指針を説明している。その都度、カンファレンスを して、本人、医師、家族と話あっている。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時や家族 会などで話し合い、同意を得ている。必要に応じて本 人・家族・医師等と話し合いを行っているが、具体化 はあまり進んでおらず、細かな点まで職員と共有でき ているとまでは言えない。</p>	<p>具体的な状況を想定し、他の利用者への影響もふま えながら対応できることとできないことを見極め、話し 合いを重ねながら方針を共有していくことが求められる。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による、救急救命講習を定期的に受けるようにしている。マニュアルを作成して、対応するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災については、避難訓練の実施、近所や消防団への依頼をしているが、災害時の訓練は不十分で、運営推進会議で助言をいただいたので、実施計画を立て、身につけるようにしていく。地域の防災会議へ出席する。 (外部評価) 火災を想定した避難訓練を実施しており、利用者の実態に応じた避難の手段を具体的に検討している。運営推進会議での提言を受け、地域の防災会議への参加や消防分団との連携を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声掛けを行い、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。失敗した時は、さりげなく誘導する。今一度、職員間で話し合う。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳を守ることを理念に掲げており、職員間で常に話し合いを行っている。人生の先輩として敬意を払い、声かけや言葉使いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に分かるように説明して、入浴、外出、食事など自分で決めてもらっている。選んでもらう場面を作るように心掛ける。本人の主体性を大切にしていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) それぞれ、自分のペースで自由に過ごされている。レクリエーションや買い物など、本人の気持ちで参加されている。その日、希望されることは、できるだけ支援するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望する美容院へ出かけている。出張美容の利用、髪染めの支援。外出の時は、おしゃれな服を着るようにしている。利用者さんの中には、日に何度も着替えて、そぐわない格好をしたり、着替えを拒否する方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの力量に応じて、職員と一緒に準備、片付けを毎日している。職員も同じ食事をしている。茶碗、湯飲み、箸は個別にしている。行事や、誕生会の時など、好みの物を聞いて、作っている。季節の旬のものを味わえるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の持てる力を引き出したいという思いから、できることを手伝ってもらいながら一緒に食事をつくっている。食べ終わってもテーブルを立たないでおしゃべりを楽しむなど、食事が楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量と水分量をチェックしている。お茶をあまり飲まない人には、他の飲み物をすすめている。カロリー計算を依頼して、栄養バランスを考えている。毎月の体重測定。夜間の湯茶の準備。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛け、歯磨き誘導をして見守りをしている。自分でできない人は、口腔ケアの介助をしている。週1回ポリデントをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意の訴えない人も、リハビリパンツを使用して、時間毎のトイレ誘導をしている。失禁のある人は、早目に声掛けをして、失敗を少なくしている。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握するために記録を残し、またしぐさや表情等からも個々のパターンや習慣を把握して排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の人には、センナ茶や牛乳を飲んでもらっている。朝の健康体操、昼のラジオ体操など体を動かしてもらっている。お腹のマッサージもしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望やペースに合わせた、入浴時間の設定。熱い湯、ぬるい湯、長湯の人など、好みに合わせた支援をしている。	
			(外部評価) 長湯の好きな方など、個々の利用者の希望に合った入浴ができるよう支援しており、気の合う職員とゆっくり話しのできる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、音、明るさ、温度など気配りできている。一人ひとりの睡眠パターンを把握して支援している。夜中に目覚めて、徘徊する人には、穏やかに過ごせるように、関わっている。表情や、行動を観察して、休憩を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の提供表で内容を確認している。 誤薬がないように、利用者と薬の照合、手渡し確認をしている。状態や変化にも気をつけている。 副作用についての理解を深めていく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 朝の掃除、料理、コップ洗い、洗濯物干し、たたみなど役割を持って生活ができています。 喫煙する人はいない。 お月見などの行事の時、少し飲酒をすることもある。 買い物や、ドライブの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 中庭の散歩、草引き、プランターの水やりなど外に出ている。個別の墓参りや、誕生日の外出など、家族の協力を得ている。 故郷、馴染みの場所へのドライブ。 外出など行事に取り入れるようにしている。 (外部評価) 一日に一度は外に出ようという目標を立てており、広い中庭は自然を肌で感じ取ることのできる散歩コースとなっている。月に一度は行事を実施し、ドライブや外出などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理している人には、助言、見守りをしている。 他の人は、買い物の時に、財布を持ってもらって、支払の時、一緒に職員が支援している。 希望時、買い物に出かけている。 預かり金は、毎月、領収書等添えて報告している。 新しい必要品購入時は、相談して、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望する時は、取次ぎをして、ゆっくり話してもらっている。 配達を希望する人がいて、支援している。 手紙の宛名書きや、投函を支援して、希望時は、代読をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロアは、カーテンで、採光の調節をして、冷暖房に配慮している。テーブルの座席の配置も、利用者間の相性を考え配置している。壁には、季節の貼り絵をし玄関には、花を飾り、季節感を出している。台所が対面式で、食事を準備している、美味しい匂いを感じることができる。</p> <p>(外部評価) 両側から使用できるようになっている対面式のキッチンには十分な広さがあり、利用者と職員が顔を合わせて一緒に作業ができる。テレビのコーナー、畳のコーナー、遠くを見渡せる広い窓など、思い思いの時間をゆっくり過ごせる場が多くある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアの畳の上や、廊下に置いた椅子で、好きに過ごしてもらっている。2Fの研修室も利用できる。徘徊する人がいるので、ソファーはのけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真や絵、位牌など、馴染みの物を自由に飾ってもらっている。殺風景な部屋でも、その人にとっては理由があると感じている。</p> <p>(外部評価) 絵や写真が飾ってある部屋、手作りの手芸品が置かれている部屋、洗濯物や着替えが積まれている部屋、すっきりと片付いている部屋など、それぞれの利用者が自分らしい暮らしのできる居場所となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室には、顔写真を貼り、トイレの表示も分かりやすくしている。手すりを利用し、日常生活ができていく。 対面式台所で、利用者さんも活動しやすい。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38736000377
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 白雲
所在地	愛媛県大洲市白滝甲669番地4
自己評価作成日	平成21年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の窓から、雄大に流れる肱川を眺めることができ、四季折々に姿を変える山々や、敷地内の2本の桜が、季節を感じさせてくれます。保育園児との交流や、地域の行事であるうら盆まつりには、笹飾りや、作りものを出品して参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年を経て、利用者、職員共に落ち着いて安定した生活状態を確保している。ホームとして市と連携し情報交換や研修会を実施するなど、認知症ケアの啓発に積極的に取り組んでいる。また、生活サポートを念頭に置いた具体的な介護計画を作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

## I.理念に基づく運営

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

## III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

## IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏名 丸本真由美

評価完了日 平成21年 7 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の運営理念を明確化して、ゆっくり、ゆったり、笑顔ある生活を目指している。住み慣れた場所での、生活の大切さを皆で理解して、フロア理念を作り、日々実践している。</p> <p>(外部評価) 「一人ひとりの自立を支え、安心と尊厳のある生活を支援していく」という法人としての理念を明確化し、職員との話し合いの中から、ユニット毎に理念を掲げて日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事への参加や、教育機関との交流をしながら地域の中で暮らしている実感を、持ってもらっているお花見に来ていただき、利用者、職員、家族と話す時間を作り、顔見知りが増えた。気軽に立ち寄ってもらえるよう、今後も努力していきたい。</p> <p>(外部評価) 目の前には幅50メートルはある大きな川、背には山という立地条件の中で、地域の方が守ってきた伝統の祭りに参加したり、中学生の職場体験を積極的に受け入れることで交流を図っている。</p>	広い芝生の前庭を利用して茶話会を開くなど、隣近所の方に気軽にホームに向いてもらえるような工夫をし、日常的に付き合いのできる関係を築いていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 一部の人の理解は得ているが、地域への浸透がまだ薄いので、継続して取り組んでいきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス評価の意義を理解して、取り組み状況の報告をしている。地域行事への参加や、災害対策などについて、意見、助言を得て、サービス向上に活かすように取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者、家族、行政職員、自治会、婦人会、人権擁護委員、他のグループホームの職員など、様々な立場の方をメンバーとして、広く意見交換ができるようにしている。また、ホームの生活ぶりを知ってもらうことで認知症に対する理解を深める啓発の場としても役立っている。メンバーには避難訓練にも参加してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス担当者会に出席して、勉強会、他グループホームとの交流、情報交換を行っている。ケアプランを提出して、意見、助言をいただいている。	
			(外部評価) 市の地域包括支援センターを交えて月1回のサービス担当者会議を開き、事例研修や学習会・情報交換等を行っている。他のグループホームと相互の訪問視察研修も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、勉強会を行い、具体的な行為を理解するようにしている。マニュアルを作り、身体拘束をしないようにしている。 玄関は、施錠していない。	
			(外部評価) 具体的なマニュアルをつくり、介護保険指定基準についてだけでなく言葉による拘束についても勉強会を行い、注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待がないように、全職員気をつけている。 勉強会で事例を用いて、話し合い、意見交換など行っている。特に言葉の暴力には、気をつけるよう自覚を促している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用されている人がいて、定期的な訪問や、必要時は、連絡を取り合っている。 制度の理解についての勉強は、その都度していく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が分かりやすく、丁寧に説明して、理解同意を得ている。 改定の際は、新しい書類を作成して、説明、同意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置。苦情受付についての説明。 面会時には、家族と話をし意見要望等を聞いている。 介護相談員との意見交換。  (外部評価) 利用者から改まって意見を言われることは少ないが、日々の生活の中で嫌なことや希望等を汲み取るようにしている。家族には訪問時には積極的に話しかけ、訪問の機会が少ない場合には手紙で問いかけるなど、話し易い雰囲気をつくるよう配慮し、家族会や運営推進会議への参加を呼びかけて要望や意見を出してもらえよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスで職員の意見を聞いている。 法人のホーム長会議での話し合い。  (外部評価) 月1回の業務カンファレンス時には、職員が気軽にどんなことでも積極的に発言できるような雰囲気づくりに配慮している。出された意見は運営法人のホーム長会議で取り上げ、運営の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) やる気と、実績により、研修会への参加や、昇進の機会がある。 時間外手当や、資格給がある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 習熟度に応じて、研修会に参加している。 資格試験への挑戦。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会への加入。研修会への参加。 市内グループホームの見学会、情報交換を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問調査をして、本人から話をできるだけ聞いている。 ホームの見学に来ていただいて、利用者、職員、家族と一緒に茶饮んで、話をし、雰囲気を感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族も事前訪問調査に同席していただいて、話を聞いている。 家族からの要望については、必ず聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ケアマネジャーさんとよく相談するようにしている。 入居に適しているかどうか、見極めの難しさを感じる時もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の場面の中で、意見を聞いたり、教えてもらった りしながら、できることを一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、本人の様子を手紙で知らせている。 面会時に家族さんと話している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 出来る時に、ドライブ等で、馴染みの場所への外出を行っている。 会いたい人や、行きたい場所等の希望に沿うよう、努めている。  (外部評価) 利用者が昔から楽しみに参加してきた地域の祭りなどには積極的に参加し、昔馴染みの方とふれあう機会を持てるよう配慮している。また、自宅や自宅付近を一緒に訪れ、馴染みのつながりを継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食後等、すぐに部屋に帰ることのないように、利用者間に入って、会話のきっかけを作っている。皆で楽しく過ごせる、レクリエーションの工夫をする。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院をされた方には、お見舞いに行っている。担当のケアマネジャーさんに連絡している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや希望を、日頃の会話や態度で、見たり、聞いたりした事から把握し、ケアに生かせるように努めている。本人の意思を一番に考え、ケアに生かしていく。 (外部評価) 日常の関わりを通して思いを汲み取るよう、特に入浴や散歩など個別の関わりができる時に寄り添って話を聞くよう努めている。聞き取った内容を職員全員で共有化できているとまでは言えない。	個々の職員が感じたり聞き取った利用者の思いや意向を記録して蓄積することで、全ての職員が情報を共有化し、ケアの質の向上につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の、情報提供書やアセスメントに目を通して、理解するようにしている。 本人、家族からもこれまでの暮らしをよく聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のパターンを把握していて、利用者の生活のリズムに合わせ無理のない対応を心掛けている。 記録に残し、ケアプラン作成に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回、ケアカンファレンスを行い、個々のケアのあり方について考え意見を出し合い、介護計画を立てられるよう努力している。  (外部評価) 担当職員は日常生活の中で利用者や家族の意向や思いを収集し、カンファレンスで職員全員の気づきを出しあって、利用者本位の具体的でわかりやすい介護計画を作成している。職員のモニタリングが介護計画に直結しているとまでは言えない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。個別記録に記入している。身体状況に変化があった場合など、必要な見直しを行い、全員で共有できるように申し送りを徹底して、対応している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族による法人内のグループホームへの移動。療養マッサージの利用。 家族からの申し出による病院等への送迎。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月のボランティア（読み聞かせ）の受け入れ。 保育所、小学校の交流、中学校の職場体験受け入れ。 消防署の指導による、救命講習、火災避難訓練等。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族の希望する病院を受診している。 (歯科、眼科、耳鼻科、総合病院など) 事業所と契約している病院を受診する場合は、本人 家族に説明、同意の上、受診している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者と家族の同意を得たうえで協力医療機関による 月2回の往診を行い、日々の健康管理に努めている。 専門医を受診する際は職員も同行し、医師との連携を 図りながら適切な支援ができるように配慮している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>毎朝、病院の看護師から、健康状態についての電話が あり、報告している。変化があった場合は、必要に 応じて、指示を受けている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院した場合は、情報提供書を書き、報告している。 お見舞いに行き、状態を把握して、医療機関と連携を とるようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>重度化した場合、看取りについての指針を文書で説明 している。 本人、家族、主治医と話し合い、その時、ホームで できる支援を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時や家族 会などで話し合い、同意を得ている。必要に応じて本 人・家族・医師等と話し合いを行っているが、具体化 はあまり進んでおらず、細かな点まで職員と共有でき ていないとまでは言えない。</p>	<p>具体的な状況を想定し、他の利用者への影響もふま えながら対応できることとできないことを見極め、話し 合いを重ねながら方針を共有していくことが求められる。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による救急救命講習を受けて、対応ができるようにしている。 事故発生時のマニュアルを作成して、対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署と、昼夜想定で火災避難訓練をしている。近所の人や、消防団への声掛けはしているが、災害時の避難訓練は不十分なので、運営推進会議での助言を基に訓練をしていく。  (外部評価) 火災を想定した避難訓練を実施しており、利用者の実態に応じた避難の手段を具体的に検討している。運営推進会議での提言を受け、地域の防災会議への参加や消防分団との連携を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 過ちや失敗に対して、叱ったり傷つけるような声掛けをしない。大きな声や、乱暴な言葉づかいをしない。出来ることは見守り、過剰介護をしないようにしている。  (外部評価) 一人ひとりの尊厳を守ることを理念に掲げており、職員間で常に話し合いを行っている。人生の先輩として敬意を払い、声かけや言葉使いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の思いや希望を聞いて、複数の選択肢を作り、選んでもらう場面を作っている。(食べたい物や、入浴の時間、行きたい所、見たい番組等) 日頃の会話の中から、感じ取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースで生活出来ている。 本人の意思、意見を尊重して、外出やレクリエーションに参加してもらっている。 外出を好む方が多いので、時間がある時は、ドライブに出かけるなどしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望により、地元の美容院での髪染めやパーマ。 出張美容での、本人の望む髪型のカット。 髭については、髭剃りで、伸びる度に剃っている。 季節に合った服装への支援。 外出時は、おしゃれしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを把握している。 1階へ一緒に食材取りに降りている。下ごしらえや、盛り付けなど、出来る事を手伝ってもらい、会話をしながら楽しんでいる。職員も同じ食事をしている。 後片付けも、出来る所までしていただいている。  (外部評価) 利用者の持てる力を引き出したいという思いから、できることを手伝ってもらいながら一緒に食事をつくっている。食べ終わってもテーブルを立たないでおしゃべりを楽しむなど、食事が楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事の摂取量、水分摂取量のチェックをしている。 夜間の水分補給も出来るようにしている。 毎月の体重測定。カロリー計算の依頼。 刻み食、ミキサー食等、個々の状態に合わせた支援。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは、利用者に合わせて、うがい、歯磨き、義歯の手入れを支援している。 ポリデントを、週1回行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は、出来る限り、布のパンツを使用して、声掛け、誘導し、失敗を少なくしている。 布パンツに尿とりパットの組み合わせや、リハビリパンツの使用など、個々に合わせた支援をしている。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握するために記録を残し、またしぐさや表情等からも個々のパターンや習慣を把握して排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排便の有無の確認、排便周期を把握している。 便秘予防のため、水分や、食事量のチェックをして、1日2回の運動、歩行の働きかけをしている。 センナ茶や、牛乳を飲んでもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表を見て声掛けし、その日の体調や、希望で入浴している。 入りたい人は、毎日のように入浴している。	
			(外部評価) 長湯の好きな方など、個々の利用者の希望に合った入浴ができるよう支援しており、気の合う職員とゆっくり話しのできる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調に合わせて、休息するよう促している。 音、光、温度に気をつけて、安眠できるように支援している。 昼夜逆転しない様に、日中の過ごし方に配慮する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬がないように、本人と薬の照合を、数度確認する。 指示通りの時間に服薬できるように、支援、確認している。薬の提供表で、理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理の手伝い、洗濯物干し、たたみ、掃除などそれぞれ役割を持って、生活されている。 買物の楽しみがあり、好きな物を買って、ご飯やおやつの時に、食べている。 ドライブで気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る範囲で、外出支援をしている。 本人の希望を家族に伝えて、お墓参りや、誕生日の夕食など協力していただいた。 行事の中に、行きたい場所を取り入れるように、計画していく。	
			(外部評価) 一日に一度は外に出ようという目標を立てており、広い中庭は自然を肌で感じ取ることのできる散歩コースとなっている。月に一度は行事を実施し、ドライブや夕食などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物の時に、財布を本人に持ってもらって、傍らで支払いの支援をしている。ホームで管理している人がほとんどであるが、希望時は、すぐに使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は、電話の取り次ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンで光の調節をして、不快な刺激もなく、窓からゆったりとした景色を、眺めることができる。玄関には、季節の花を飾っている。壁には、季節感を感じるような作りものをして、貼っている。対面式の台所から、調理中の、いい匂いを感じる。	
			(外部評価) 両側から使用できるようになっている対面式のキッチンには十分な広さがあり、利用者と職員が顔を合わせて一緒に作業ができる。テレビのコーナー、畳のコーナー、遠くを見渡せる広い窓など、思い思いの時間をゆっくり過ごせる場が多くある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳の上で、くつろぐことができる。研修室に椅子があり、好きな窓から眺めることができ、気の合った同士で、話している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族や自分の写真を飾ったり、花を置いたり、自由に部屋を使われている。入居時に、できるだけ馴染みの物を、持ってきてもらうように、家族さんにも伝えている。	
			(外部評価) 絵や写真が飾ってある部屋、手作りの手芸品が置かれている部屋、洗濯物や着替えが積まれている部屋、すっきりと片付いている部屋など、それぞれの利用者が自分らしい暮らしのできる居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりを使用して、生活できている。トイレも大きく表示していて、部屋にも顔写真を貼っている。わかりにくい利用者には、赤いリボンをつけて目印にしてもらっている。	